

マックス株式会社

2020年3月期第3四半期



決算説明資料

---

2020年1月30日

# 目次

1. 2020年3月期 第3四半期全社実績
2. 2020年3月期 第3四半期セグメント実績
3. 2020年3月期 通期見通し

# 2020年3月期 第3四半期

## 全社実績

■為替レート

(当期) 1ドル 109.06円 / 1ユーロ 121.33円

(前期) 1ドル 110.81円 / 1ユーロ 129.64円

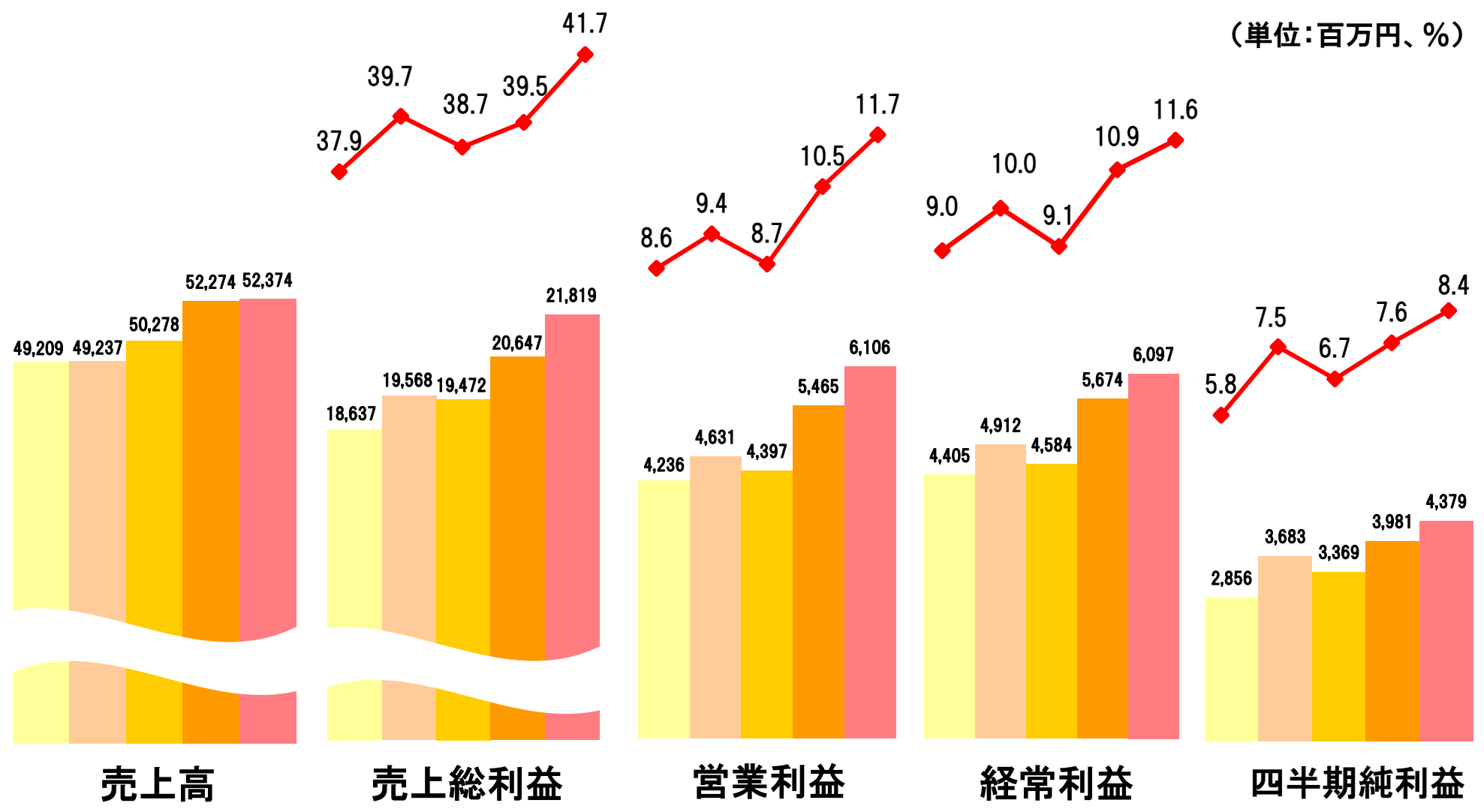
(単位:百万円、%)

	当期実績	対前期		対計画	
		前期実績	増減率	通期計画※	進捗率
売上高	52,374	52,274	0.2	70,500	74.3
売上総利益 同率	21,819 41.7	20,647 39.5	5.7	—	—
営業利益 同率	6,106 11.7	5,465 10.5	11.7	7,900 11.2	77.3
経常利益 同率	6,097 11.6	5,674 10.9	7.5	7,800 11.1	78.2
親会社株主に帰属する四半期純利益 同率	4,379 8.4	3,981 7.6	10.0	5,400 7.7	81.1
1株当たり四半期純利益 (円)	89.54	80.82	—	110.41	—

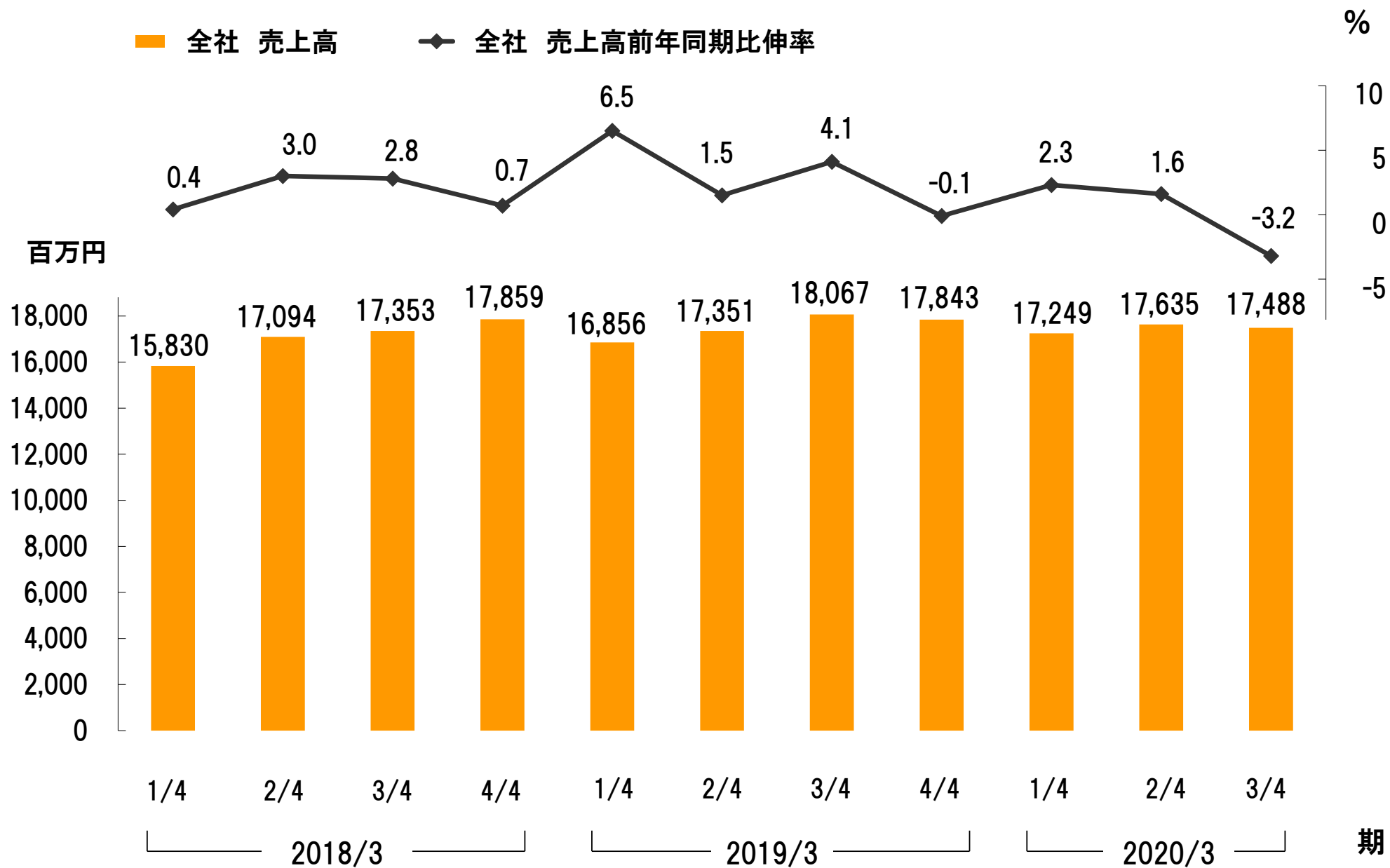
※2019年10月30日発表数値

■ 2016年3月期3Q   
 ■ 2017年3月期3Q   
 ■ 2018年3月期3Q  
■ 2019年3月期3Q   
 ■ 2020年3月期3Q   
 — 同率

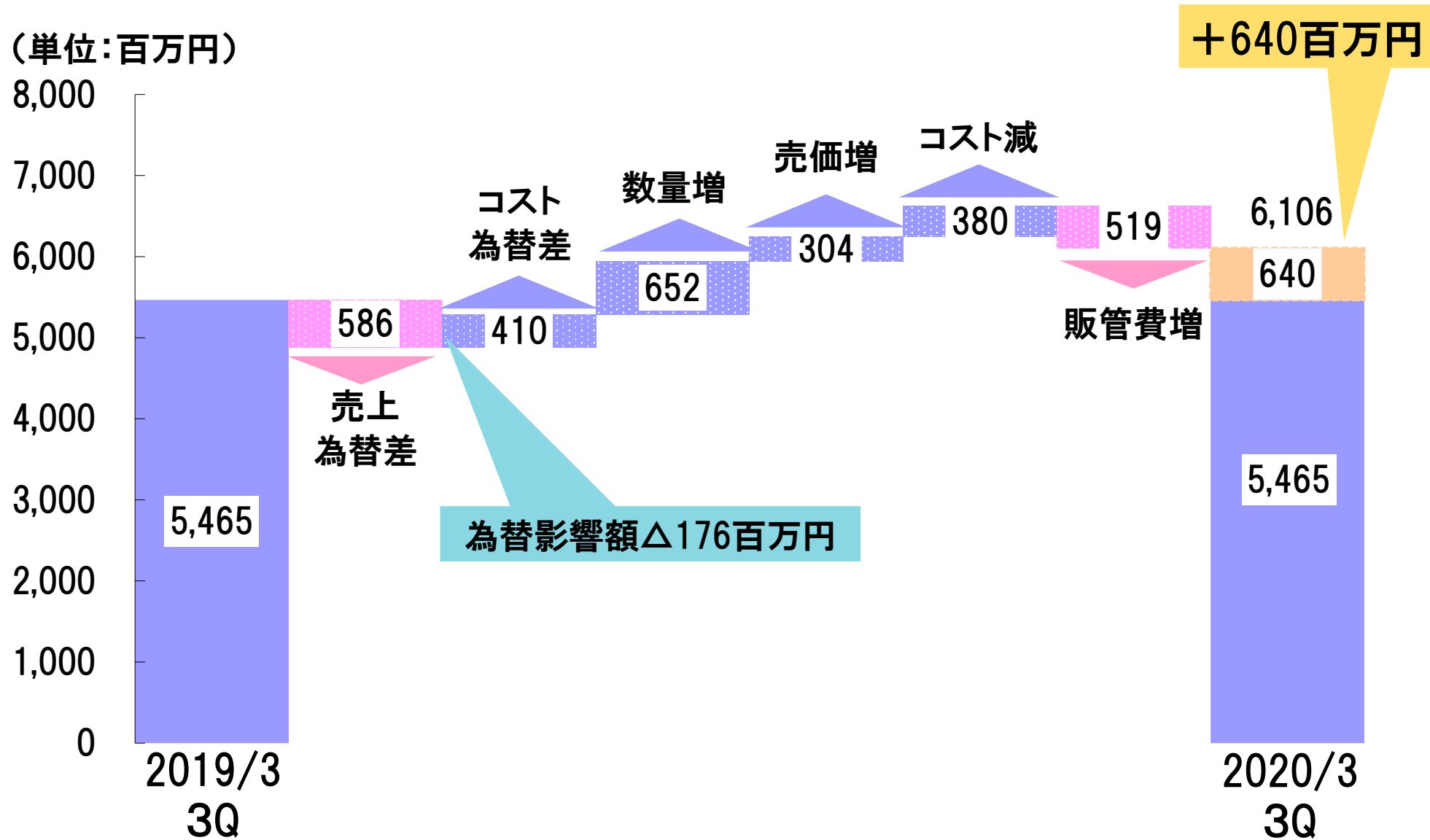
(単位:百万円、%)



### 3 四半期別 全社売上高推移



# 4 営業利益の増減要因



## ■ 営業外収支と特別損益の実績

(単位:百万円)

	2020年3月期3Q	2019年3月期3Q	前年差
営業外収支	△9	208	△217
営業外収益(為替除き)	275	303	△28
営業外費用(為替除き)	△77	△66	△11
為替差額	△207	△28	△178
特別損益	△45	△10	△35
特別利益	※1 175	10	+165
特別損失	※2 △221	△20	△200

※1 投資有価証券売却益 など    ※2 大阪支店旧社屋解体費用 など

## ■ 設備投資、減価償却費、研究開発費の実績

(単位:百万円、%)

	2020年3月期3Q	2019年3月期3Q	2020年3月期 年間計画	進捗率
設備投資	2,036	2,320	5,177	39.3
減価償却費	1,818	1,613	2,552	71.2
研究開発費	2,367	2,176	3,106	76.2



国内	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新設住宅着工戸数・・・2019年1月～9月は前年比△2.0% (持家着工 +5.3%、賃貸 △13.2%、分譲住宅 +7.7%) ⇒機工品事業(木造系)、住環境機器にマイナス影響。</li> <li>・非居住建築物の着工床面積・・・2018年10月～2019年6月は前年比△3.9% (事務所 △12.3%、店舗 △6.9%、工場 △8.4%、倉庫 +4.9%)</li> <li>・建設技能労働者 鉄筋工(建築)の不足は解消されつつある。 ⇒機工品事業(コンクリート系)にマイナス影響。</li> </ul>
海外	<p>1ドル109.06円、1ユーロ121.33円 (前年:1ドル110.81円、1ユーロ129.64円 計画:ドル105.00円、ユーロ115.00円) 全社の為替感応度は、外貨での売上・仕入れ額のバランスがとれており、 営業利益での影響は少ない。</p> <p>世界経済・・・米国経済は雇用の増加を背景に個人消費が下支えとなり、景気回復が継続。 欧州経済は英国のEU離脱を背景に景気は弱い回復となっている。 アジア経済は中国の製造業を中心に一段と弱い動きがみられ、緩やかな減速が続いている。</p> <p>米国の足元の新設住宅着工は増加している。 11月の年率換算値は137.5万戸、12月は160.8万戸 (前年は11月120.2万戸、12月114.2万戸) ⇒海外機工品事業にプラス影響。</p>

# 2020年3月期 第3四半期

## セグメント実績

(単位:百万円、%)

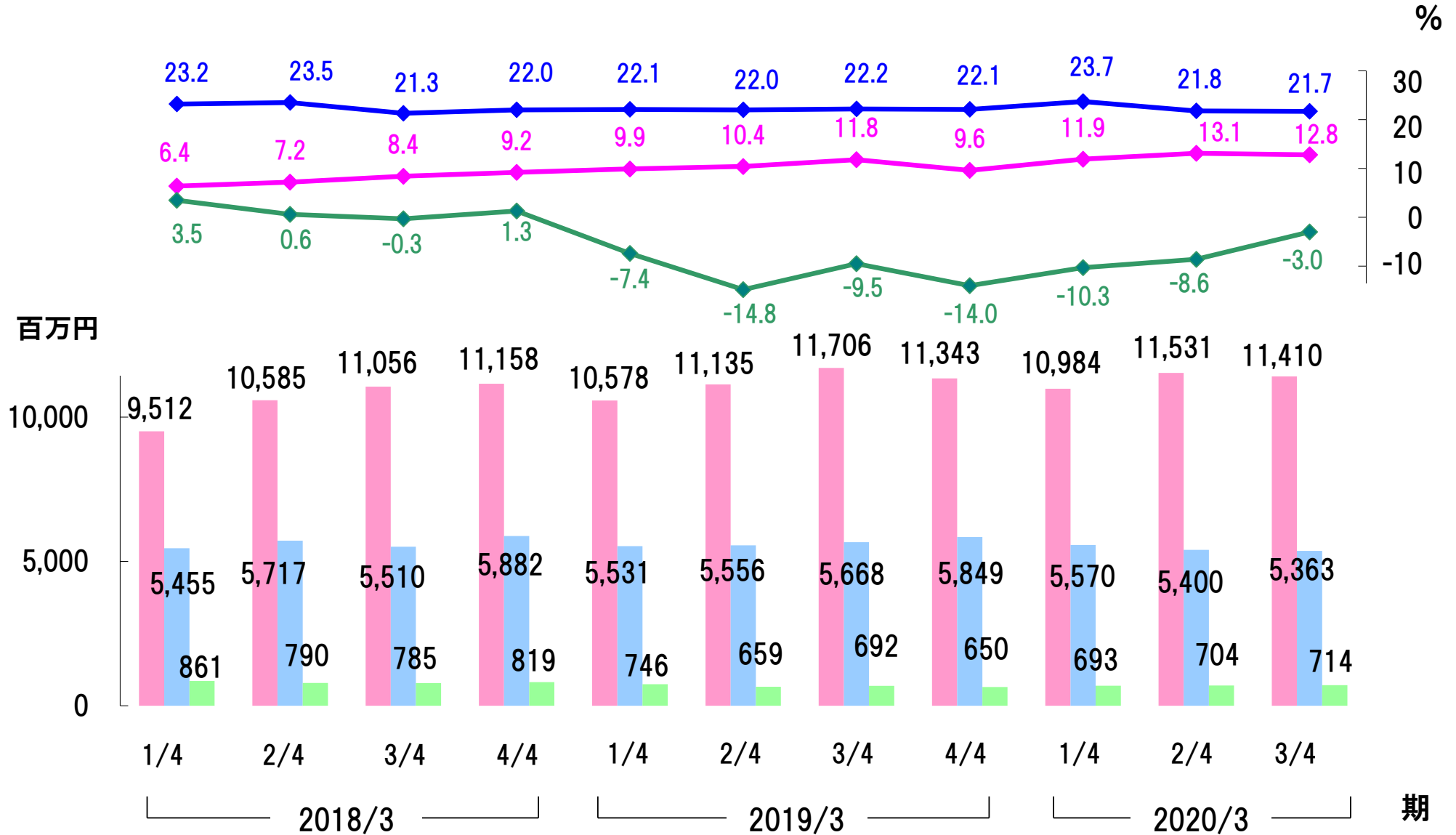
	当期実績	対前期		対計画		
		前期実績	増減率	通期計画※	進捗率	
報告 セグ メン ト	<b>インダストリアル機器部門</b>					
	売上高	33,927	33,419	+1.5	45,300	74.9
	セグメント利益	4,281	3,592	+19.2	5,400	79.3
	セグメント利益率	12.6	10.8	(+1.8P)	11.9	
	<b>オフィス機器部門</b>					
	売上高	16,334	16,756	△2.5	22,300	73.3
	セグメント利益	3,663	3,704	△1.1	5,000	73.3
	セグメント利益率	22.4	22.1	(+0.3P)	22.4	
	<b>HCR機器部門</b>					
	売上高	2,112	2,098	+0.7	2,900	72.8
	セグメント利益	△153	△219	—	△180	—
	セグメント利益率	△7.3	△10.4	(+3.1P)	△6.2	
<b>調整額</b>						
	△1,684	△1,612	—	△2,320	—	
<b>全社計</b>						
売上高	52,374	52,274	+0.2	70,500	74.3	
営業利益	6,106	5,465	+11.7	7,900	77.3	
営業利益率	11.7	10.5	(+1.2P)	11.2		

※2019年10月30日発表数値

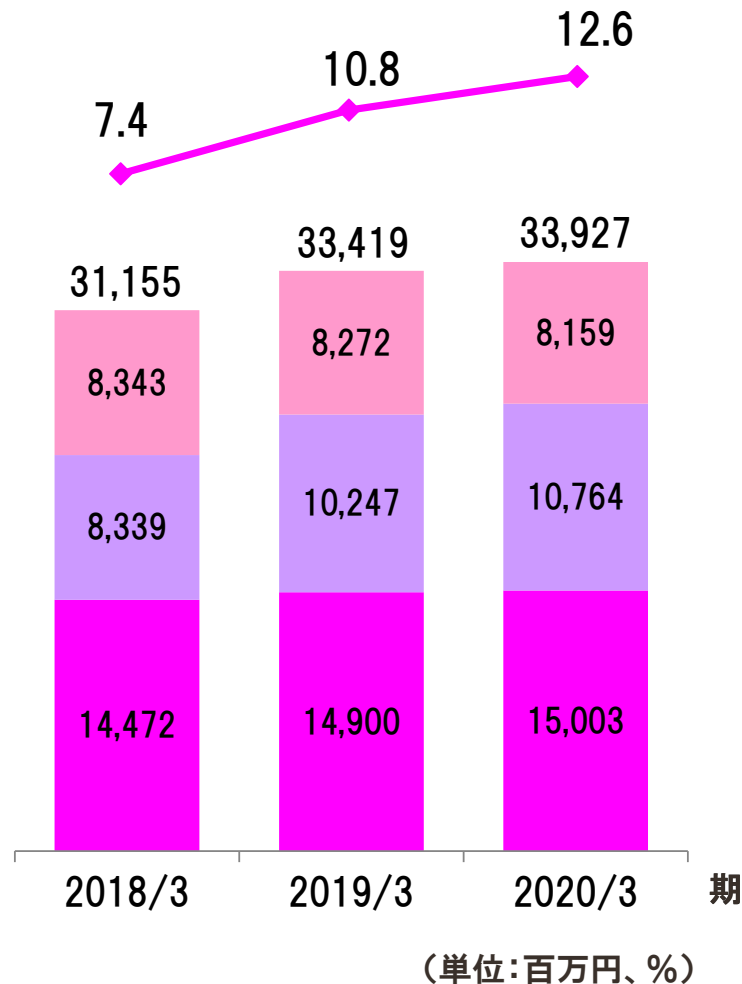
# 8 四半期別 セグメント売上高推移



■ インダストリアル機器部門 売上高     
 ■ オフィス機器部門 売上高     
 ■ HCR機器部門 売上高  
◆ インダストリアル機器部門 セグメント利益率     
 ◆ オフィス機器部門 セグメント利益率     
 ◆ HCR機器部門 セグメント利益率



- 国内機工品事業 売上高
- 海外機工品事業 売上高
- 住環境機器事業 売上高
- インダストリアル機器部門 セグメント利益率



売上高 33,927百万円 / セグメント利益 4,281百万円  
(前年同期比+1.5% / 前年同期比+19.2%)

### 国内機工品事業

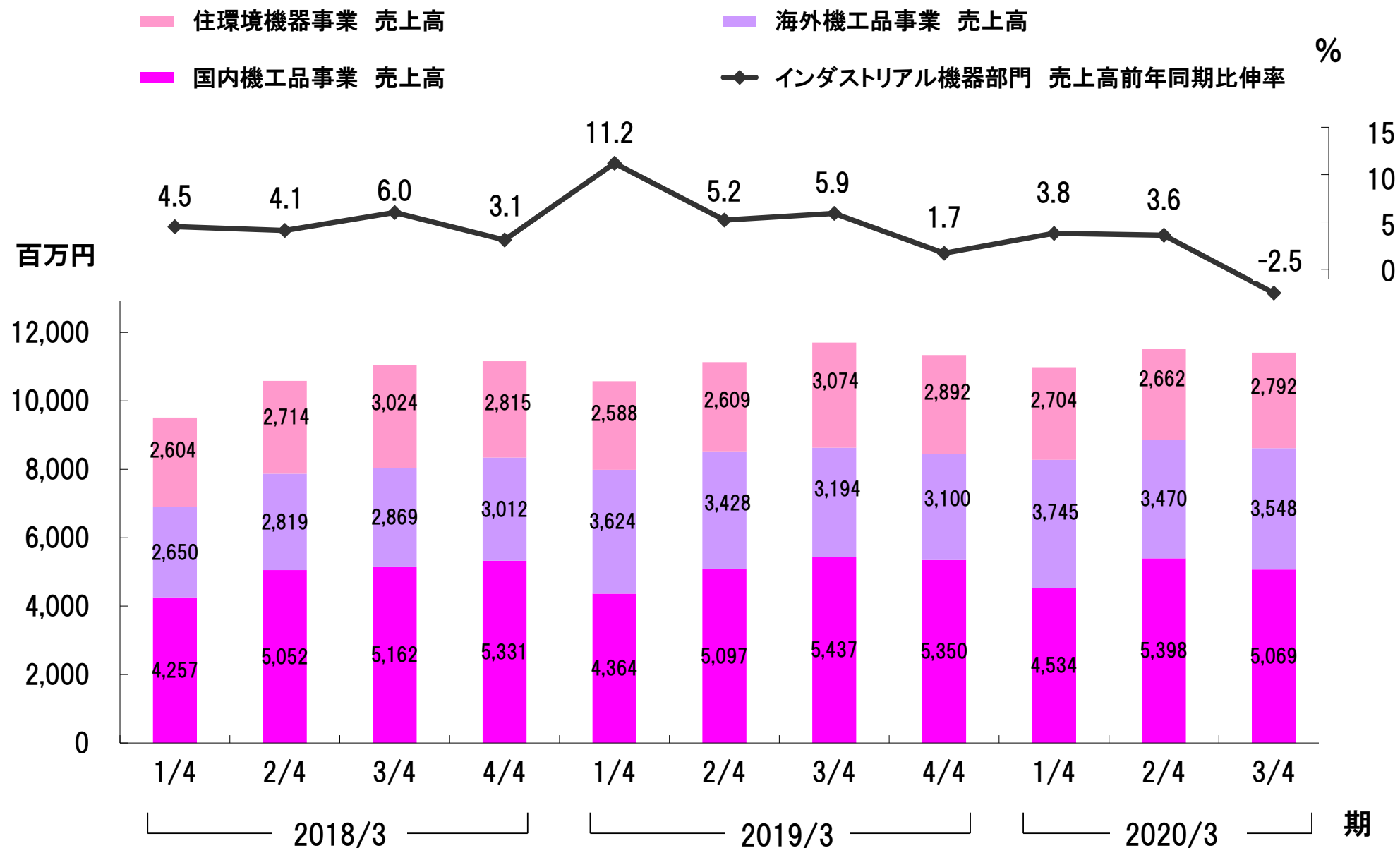
- ・売上高 15,003百万円 前年同期比+0.7%
- 太い鉄筋径の結束を可能にした鉄筋結束機「ツインタイヤ」の新製品を11月に発売し、建築などの既存市場だけでなく、土木市場などへの導入が進み、微増収となりました。

### 海外機工品事業

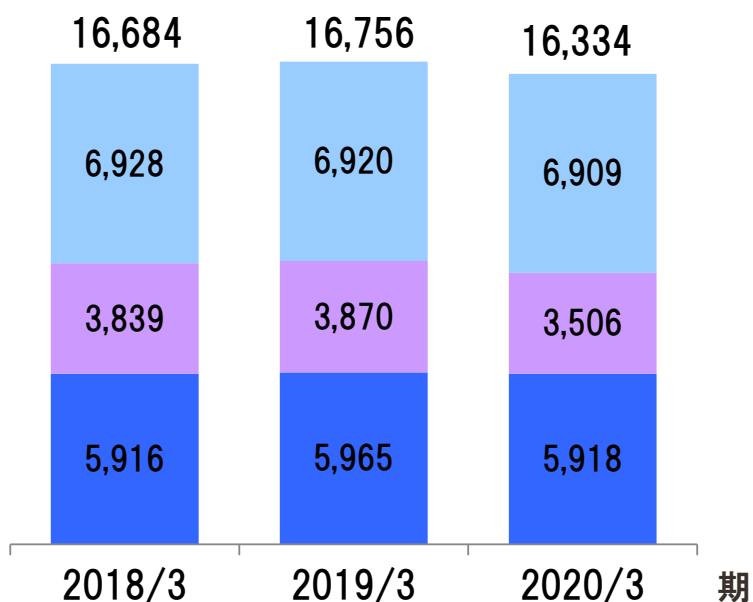
- ・売上高 10,764百万円 前年同期比+5.0%
- 欧米市場において鉄筋結束機「ツインタイヤ」の導入が順調に推移し、それに伴い消耗品の実績も伸長したことで、コンクリート構造物向け工具の販売が増加し、増収となりました。

### 住環境機器事業

- ・売上高 8,159百万円 前年同期比△1.4%
- ストック市場において主力の浴室暖房換気乾燥機「ドライファン」の販売が増加しましたが、換気システムの販売が減少し、事業全体では減収となりました。



- 国内オフィス事業 売上高
- 海外オフィス事業 売上高
- オートステープラ事業 売上高
- オフィス機器部門 セグメント利益率



(単位:百万円、%)

**売上高 16,334百万円 / セグメント利益 3,663百万円**  
 (前年同期比△2.5% / 前年同期比△1.1%)

### 国内オフィス事業

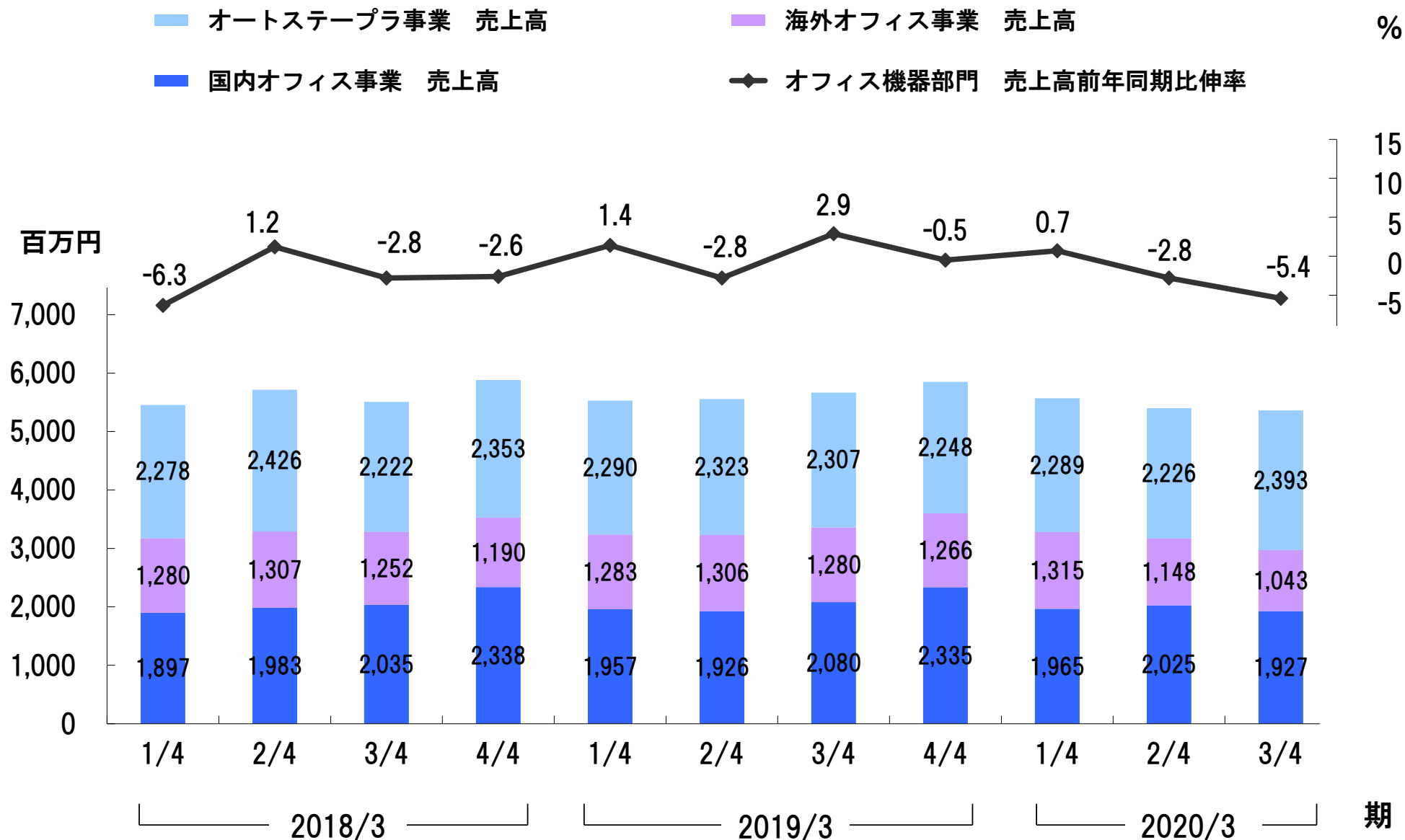
・売上高 5,918百万円 前年同期比△0.8%  
 製造工場へ安全表示の改善提案を進め、表示作成機「ビーポップ(Bepop)」の販売が増加したものの、文具関連製品や電気設備用チューブマーカ「レタツイン」の販売が減少し、事業全体では微減収となりました。

### 海外オフィス事業

・売上高 3,506百万円 前年同期比△9.4%  
 欧州市場で表示作成機「ビーポップ」の販売が増加したものの、アジア市場における文具関連製品の販売減少が続き、事業全体では減収となりました。

### オートステープラ事業

・売上高 6,909百万円 前年同期比△0.2%  
 第2四半期まで減少傾向にあった機械の販売が回復基調となったものの、円高に推移した為替の影響により、事業全体では前年同水準となりました。





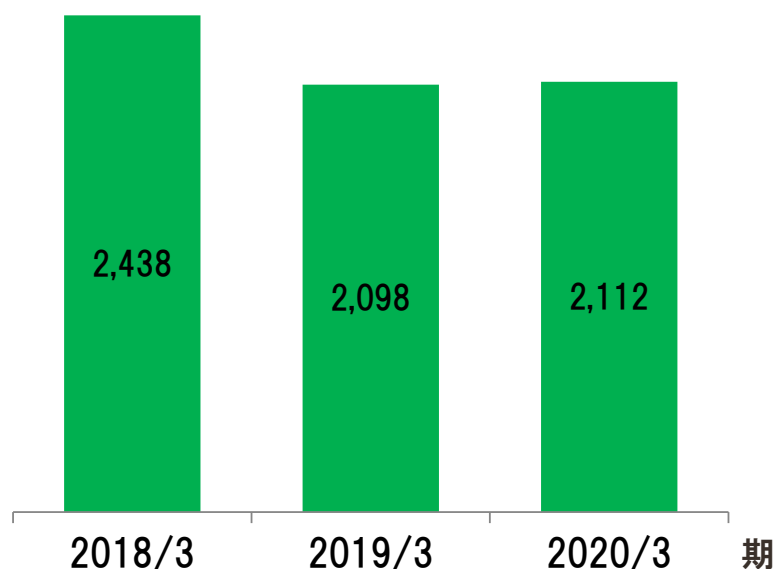
- HCR機器部門 売上高
- HCR機器部門 セグメント利益率

売上高 2,112百万円 / セグメント利益 △153百万円  
(前年同期比+0.7% / 前年同期比-)

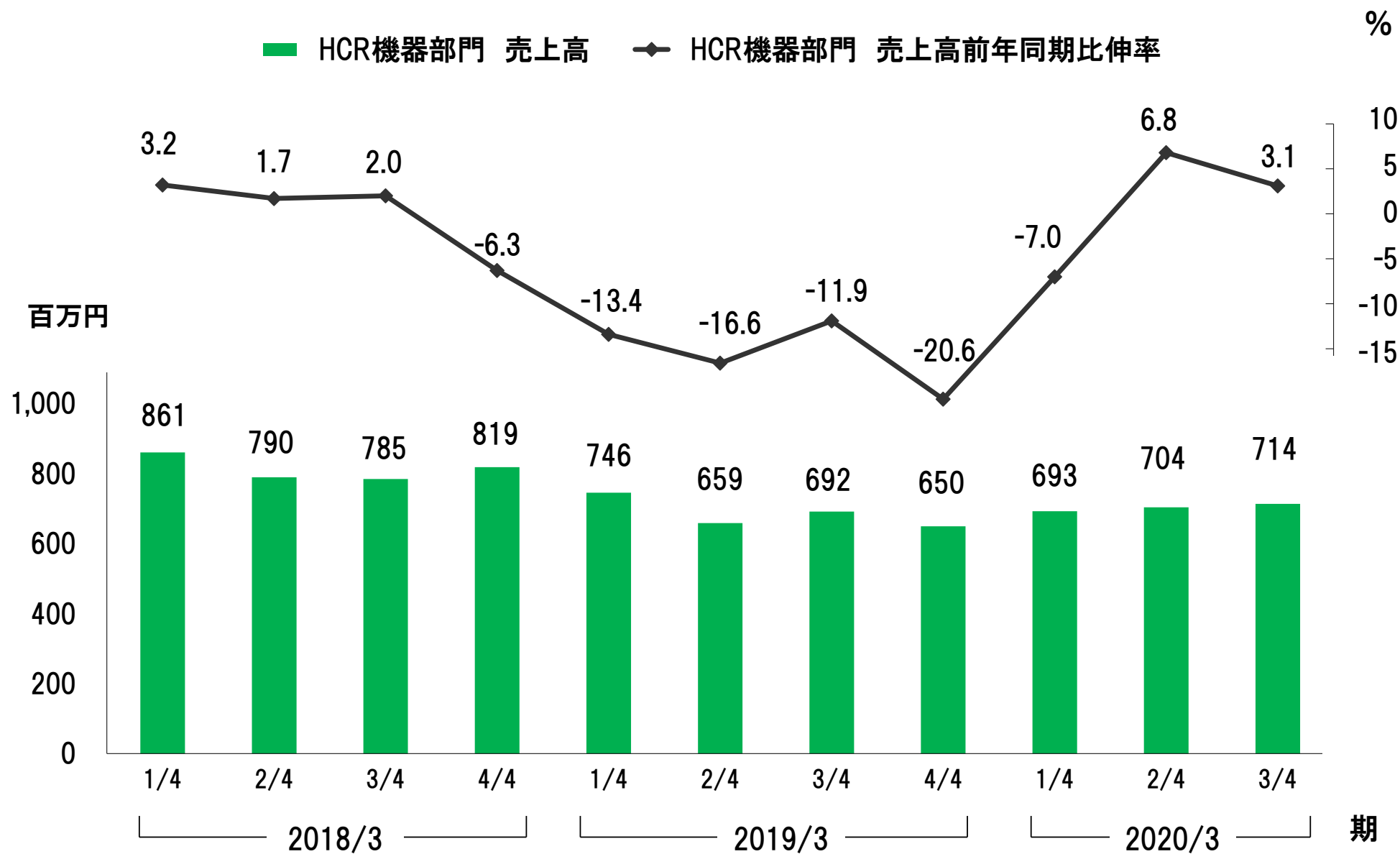


### HCR機器部門

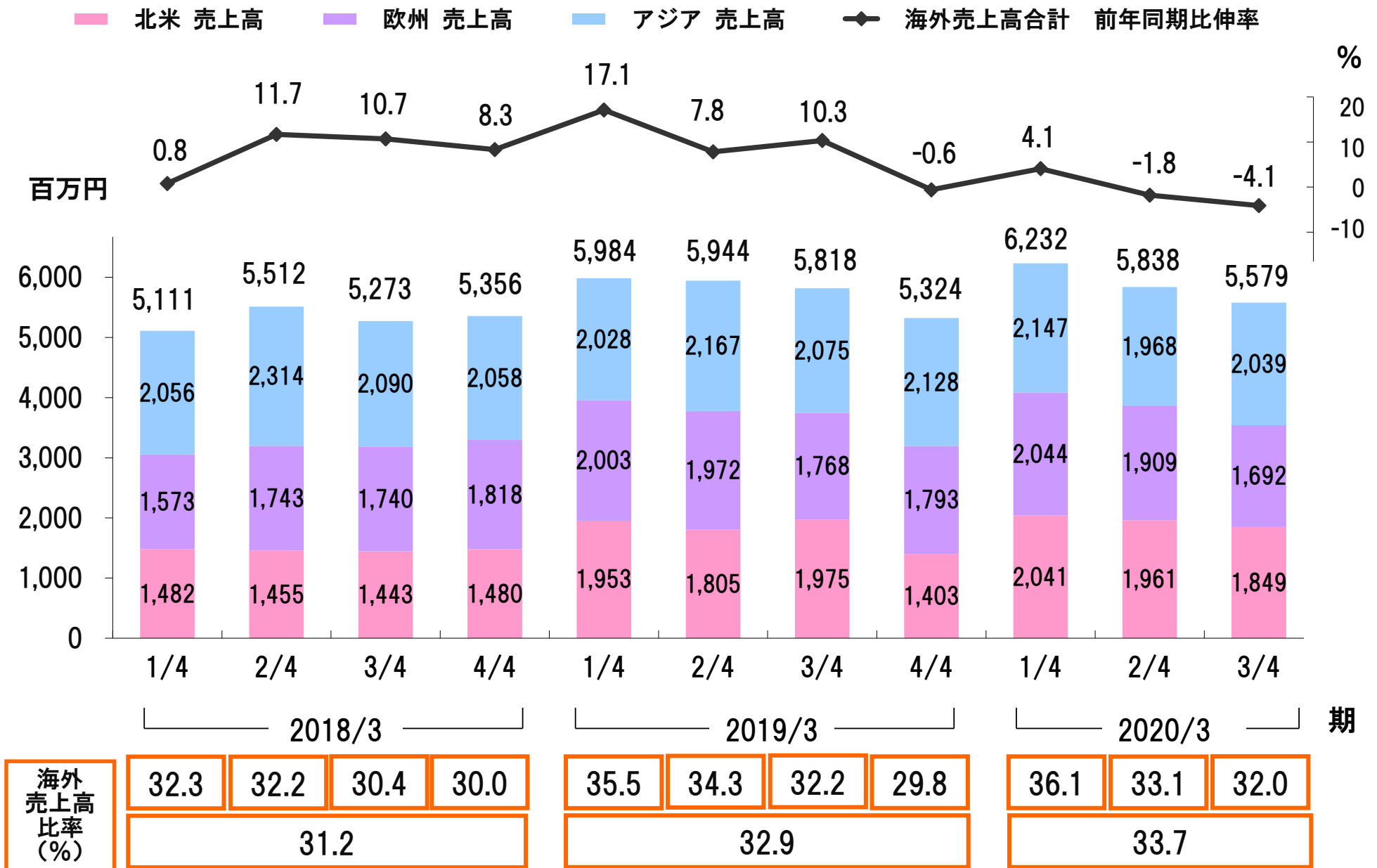
旧製品の販売終了の影響があったものの、前期より販売をスタートした新製品車いす「モダンシリーズ」の採用が大手レンタルルートで進み、事業全体では微増収となりました。



(単位:百万円、%)

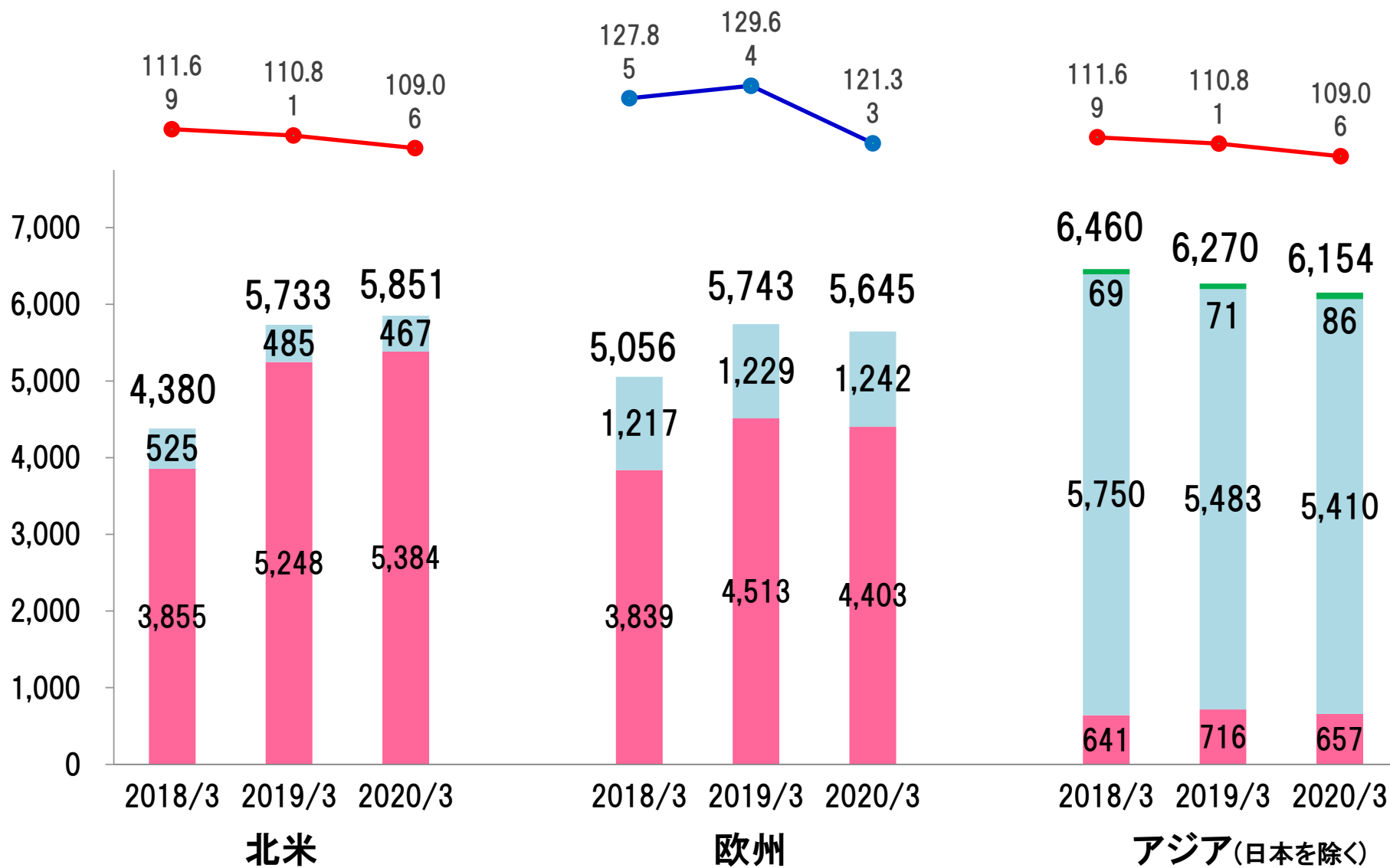


# 15 四半期別 海外売上高推移



※オートステープラ事業の海外売上高も含んでおります。

■ インダストリアル機器部門 
 ■ オフィス機器部門 
 ■ HCR機器部門 
 — 円/ドル 
 — 円/ユーロ



# ■新製品 鉄筋結束機「**TWINTIER**」大口徑モデル

2019年11月 国内海外で発売

● 結束可能径が拡大、太い鉄筋に対応

➡ 現場の作業負荷軽減や工期短縮への更なる貢献

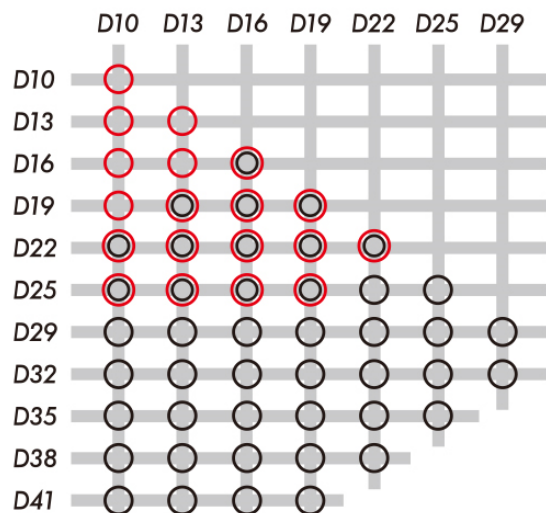
建設市場： 梁・柱の先組み など

土木市場： 新幹線・高速道路の下部工橋脚 など

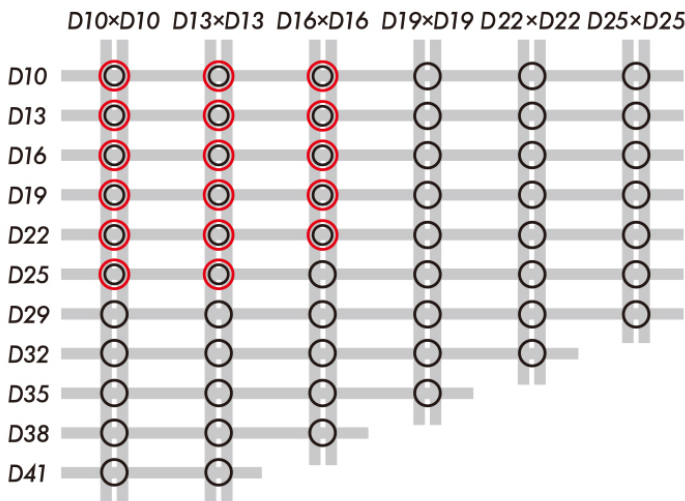


結束可能鉄筋径の組み合わせ：【新製品】大口徑モデル ○ 従来機 ○

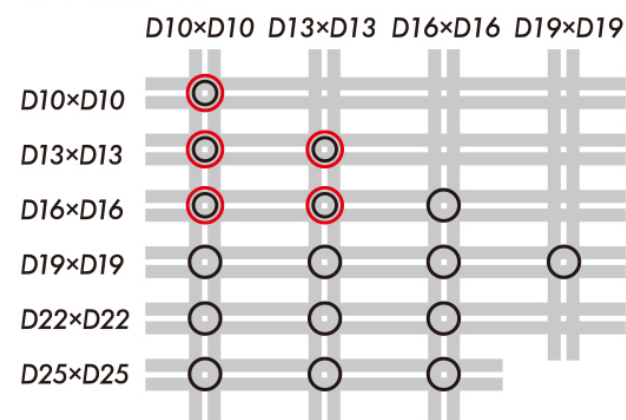
2本の組み合わせ



3本の組み合わせ



4本の組み合わせ



	建築市場	建設市場	プレキャスト工場	土木市場
	住宅基礎	大型施設 マンション	建物の部材	道路、橋梁
				
国内事業	既存市場	既存市場	開拓市場	開拓市場
海外事業	北米: 既存市場	北欧: 既存市場 欧米: 開拓市場	欧州: 既存市場 北米: 既存市場	欧米: 開拓市場
大口径モデル 新規アプリケーション	—	梁・柱の先組み 耐圧スラブ	梁・柱の先組み	新幹線・高速道路 などの橋脚

＜国内事業＞

【建設市場】マンション 梁

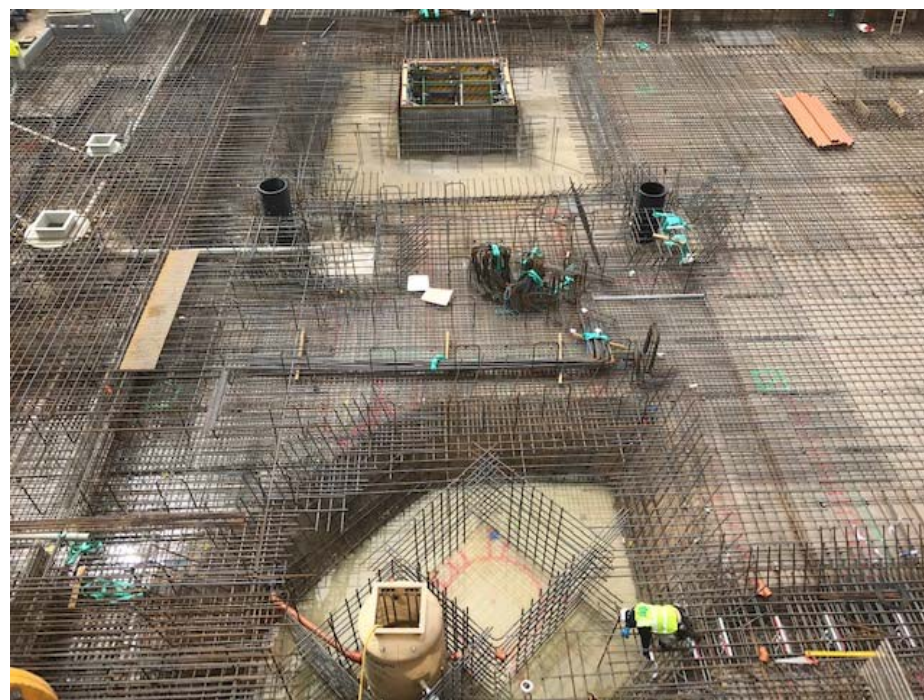
鉄筋径： D35×D13



＜海外事業＞

【建設市場】大学キャンパス  
耐圧スラブ

鉄筋径： D25×D25



# 2020年3月期 通期見通し



## ■通期想定為替レート

(当期) 1ドル109.30円／1ユーロ121.00円

(前期) 1ドル110.67円／1ユーロ128.74円

(単位:百万円、%)

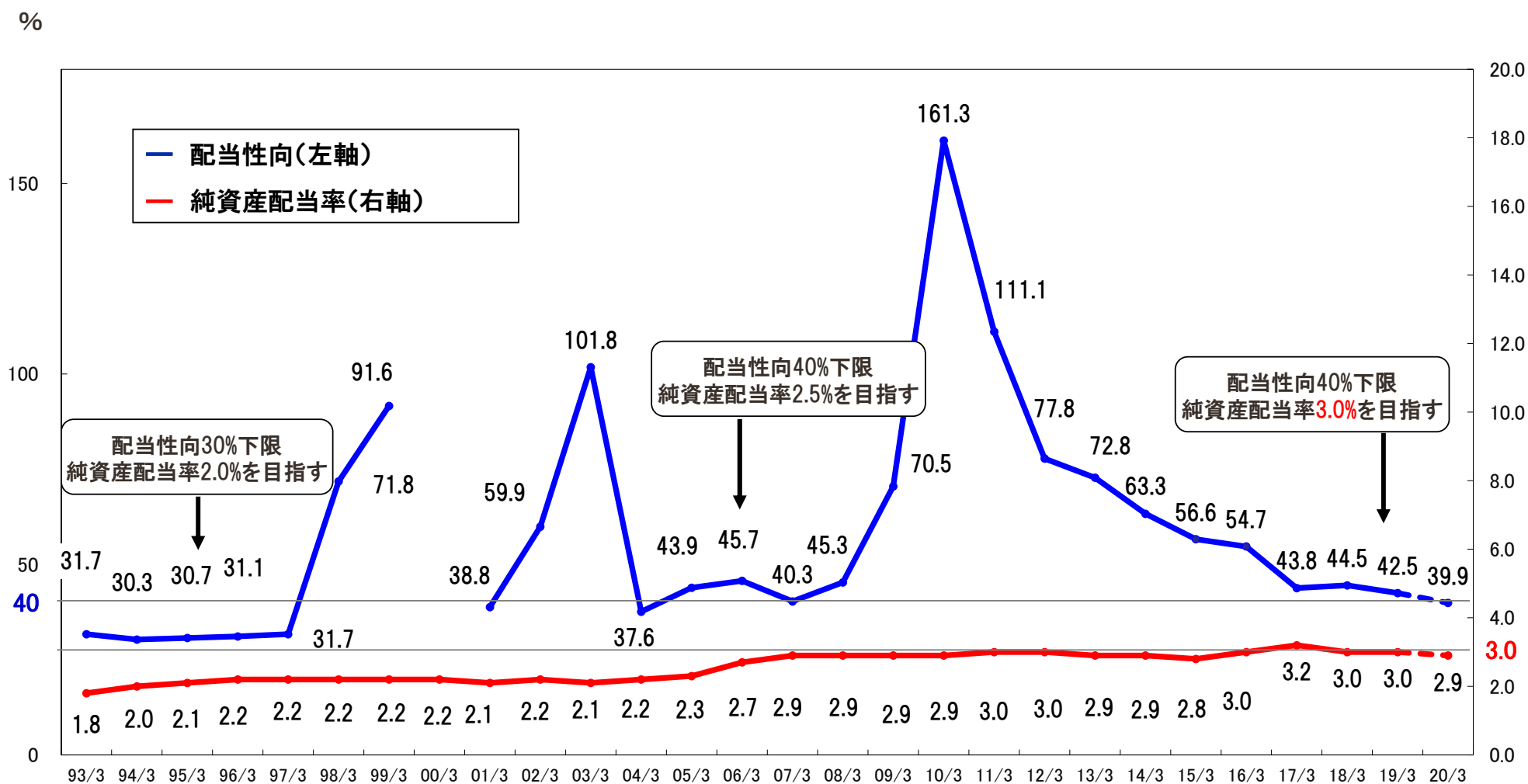
	当期計画 (年間)	対前期	
		前期実績 (年間)	前期比
売上高	70,500	70,118	0.5
営業利益 同率	7,900 11.2	7,150 10.2	10.5 (+1.0P)
経常利益 同率	7,800 11.1	7,253 10.3	7.5 (+0.8P)
親会社株主に帰属する当期純利益 同率	5,400 7.7	5,064 7.2	6.6 (+0.5P)
1株当たり純利益(円)	110.41	102.92	—

(単位:百万円、%)

		対前期		
		当期計画 (年間)	前期実績 (年間)	前期比
報告 セグ メン ト	<b>インダストリアル機器部門</b>			
	売上高	45,300	44,763	1.2
	セグメント利益	5,400	4,684	15.3
	セグメント利益率	11.9	10.5	(+1.4P)
	<b>オフィス機器部門</b>			
	売上高	22,300	22,606	△1.4
	セグメント利益	5,000	4,999	0.0
	セグメント利益率	22.4	22.1	(+0.3P)
	<b>HCR機器部門</b>			
	売上高	2,900	2,748	5.5
	セグメント利益	△180	△310	—
	セグメント利益率	△6.2	△11.3	(+5.1P)
<b>調整額</b>	△2,320	△2,223	—	
<b>全社計</b>				
売上高	70,500	70,118	0.5	
営業利益	7,900	7,150	10.5	
営業利益率	11.2	10.2	(+1.0P)	

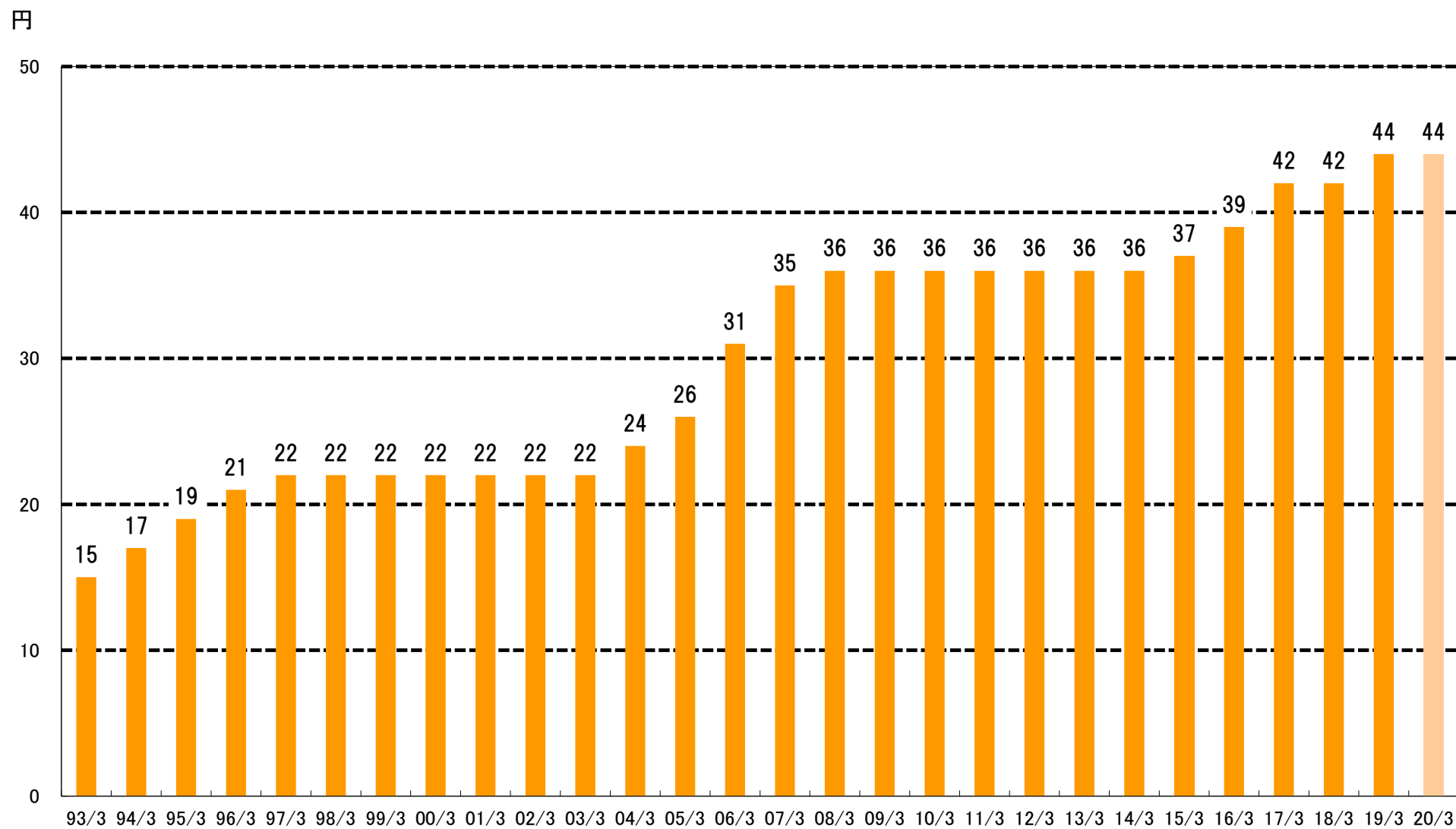
## <配当方針>

連結決算を基準に「配当性向40%下限、純資産配当率3.0%目標」



※2005年3月期までは単独ベースです

計画





本資料に記載されている内容は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいて作成されたものであり、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。予めご承知おきください。